

# 富山大学地域連携推進機構生涯学習部門における 2013年度の実施事業について

竹 内 章

(富山大学地域連携推進機構生涯学習部門長)

要旨：富山大学地域連携推進機構生涯学習部門において2013年度に実施した事業の概要を報告する。公開講座の開設数は74講座、オープン・クラスの公開科目数は726科目であった。2013年度取組んだ将来構想作業についても簡単に触れる。



## はじめに

現代社会には、あらゆる世代にとって生きがいや学びがいのある豊かな生涯学習環境を構築し、広く大学開放の事業を展開していく使命を果たす責任が課せられています。この理念のもと、富山大学地域連携推進機構生涯学習部門は、1996年、旧富山大学に文部省令施設富山大学生涯学習教育研究センターが発足して以来一貫して、(途中、2005年10月に富山県内国立3大学統合を機に現在の名称に変わりはしましたが、)教養講座・体験講座・外国語や情報スキル講座などを開講し、大学開放事業の拠点組織としての役割を17年間担ってきました。

2014年4月の総務省発表によれば、超高齢社会7年目にして早くも国内の人口に占める65歳以上の割合が初めて4分の1を超えたという。政治・経済・国際関係を含め、日本社会は驚くほど急速に変貌しつつあります。2011年東北地方太平洋沖地震・津波による巨大災害からの復興はまだ兆しささえも覚つかない状況に加えて、関東以西の東海道・南海道地帯もまた巨大海溝型地震・津波の脅威が政府からも指摘されています。こうしたなか、地域社会における大学の役割として、安全で安心な社会の構築

という極めて具体的な課題を中心に地方社会への貢献が、以前にも増して強く求められています。

こうした喫緊の要請にも対応すべく、当部門では、通常の公開講座・オープンクラス等の経常業務を着実に推進することに加えて、受講生オープンサロンや生涯学習部門のフェイスブックの開設、将来構想立案などを行いました。当部門の今後10年に向けた構想では、大学開放事業の基本は堅持しつつ、協力教員による部門の主体的力量強化や、正規学生のキャリアアップ教育や社会人の学びなおし、ボランティア人材育成、公民館支援を含む知(地)の拠点事業(大学CoC)などの取組を掲げています。

今回刊行する年報第16巻では、緊縮財政で体験型講座の縮小を余儀なくされつつも中期計画に掲げた業績レベルを維持しつつ奮闘している生涯学習部門の実情をご覧ください。その上で、ユニークな公開講座、さらには地域ジャーナリズムや防災まちづくり、ジオパーク活動等々、生涯学習部門を中核とした地域貢献の新しいスタイルについてご意見・ご提案をいただければ望外の喜びです。

皆さまには、生涯学習を通じて地域連携と大学開放を推進する当部門へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

## 1. 生涯学習事業

### ① 公開講座

本学は数多くの公開講座を実施しています。この事業は、本部門に設置された全学的な公開講座専門委員会で企画が審議・承認され、スタッフの大学開放に対する深い理解・協力のもとで実現されています。

ジャンルごとの開講数でみると、教養講座で16コース、語学講座で27コース、体験講座で31コース、計74コースが企画されました。それぞれの受講者数（修了者数）をみると、教養講座で104名、語学講座で259名、体験講座で260名、合計623名になり、前年度よりも272名の減少となりました。このことについて本部門では、財政上の理由から、従来行っていた新聞へのチラシの折込みが実施できず、広報が行き届かなかったことが受講者数減少の最大の原因と分析しています。

本学の公開講座は、一般市民の学習ニーズとうまくかみ合った企画であることから、多くの講座が例年恒例の形で（微調整・ヴァージョンアップも伴いながら）実施されます。語学では、初級から中級にステップアップする講座が開設されています。他方では新しいタイプの講座も生まれます。2013年度は次のような多岐にわたる講座が新しく企画されました。

- ・バリアフリーを見つめ直す
- ・テオフィル・ゴティエの小説をフランス語で読む
- ・HTML5とJavaScriptによる楽しいプログラミング
- ・正月用寄植盆栽作り
- ・幹細胞と生活習慣病
- ・「徒然草」を読みながら、変体仮名に親しもう 他

極めて多彩なジャンル・レベル設定を備えた講座の数々について、ここで詳細に述べつくことはできません。しかし、多くの一般市民が受講していることや、本年報収録の受講生アンケートの結果をみると、大学の知的資源を地域社会に還元するという目的はおおむね達成できていると評価できます。



### ② オープン・クラス

オープン・クラスは、正規学生に対する授業を一般市民に開放する取り組みです。

2013年度のオープン・クラス利用は、受講希望者が延べ345人（前期199人、後期146人）、試聴等を経て実際に受講した者は延べ281人（前期159人、後期122人）にのぼりました。

開放科目数は前年度864科目から2013年度726科目となり、延受講者数も前年度より20名程度の減少でここ数年下がり続けています。

### ③ 講師等紹介

本部門では学外からの講演会・研究会等のための講師派遣依頼に応じて、本学教員の紹介をおこなっています。講師の選定とともに、企画段階でも学習（研修）プログラム作成に協力しており、2013年度は、本部門において、約35件の講師等の紹介を行いました。

なお、講師等紹介には本部門を経由せず、各学部に応じ、申し入れて実施されているケースもある

ことをお断りしておきます。

#### ④ サテライト公開講座

2013年度も8講座が開講され、総計530名の参加者が集まり、大変盛況でした。

平成25年度 富山大学  
富山駅前サテライト公開講座  
「知りたい。をここから 一豊かな暮らしのために」  
富山大学の教員がさまざまな分野について、わかりやすくお話しします。  
感銘感とも申し分ない。受講料は不要です。お気軽にどうぞください。

期間：14:00～18:30  
定員：各講座とも60名程度(席のゆとりを考慮し、変更あり)  
会場：富山駅前 コロビル3階 学習室

第1回 5/18(土) ガーデンや畑仕事で体力づくり 人間発達科学部 教授 土村 英和	第5回 9/7(土) 身近な資源(竹・厚物合板)を利用した 目録大工 富山県立大学 教授 堀江 秀元
第2回 6/15(土) どうしてなかなかやせないの？ 一身近にできるメタボ・糖尿病対策一 大学附属富山県立総合医療センター 教授 下藤 一之	第6回 11/16(土) 期待を高める再生可能エネルギー発電。 増えて欲しい、課題は？ 富山県立大学工学部 教授 田中 彰平
第3回 7/6(土) 発掘された古代の紋馬 人文学部 教授 宮山 博	第7回 12/14(土) 富山が育む生物多様性の現状と課題 富山県立大学工学部 教授 山崎 裕治
第4回 8/3(土) 脳の病気を知らう 一今、脳の病気の事を語るために、 こんな研究がなされています一 富山県立大学 教授 野田 博英	第8回 H26年 3/1(土) 感謝の法について知らう 一道法業者から家族を守るために一 経済学部 教授 森島 秀紀

〒930-8502 富山県富山市富山町1-1  
TEL: 076-445-6956 FAX: 076-445-6033  
E-mail: info@toyama-u.ac.jp

#### ⑤ その他の講座・イベント

##### ・ コラボフェスタ 2013

2013年9月12日(木)、富山大学五福キャンパス内においてコラボフェスタ2013を開催しました。当部門は実行委員会に参加し、第1部のシンポジウム「高齢社会への挑戦」では、生涯学習の視点から前富山県民生涯学習カレッジ学長が発言しました。第3部では、ポスター「地域の生涯学習推進に向けて、中核・拠点的作用を目指す」を展示し、参加者と意見交換を行いました。

##### ・ ワークショップ

2013年11月2日(土)、富山県民会館において「おとなの学びをワークショップで語ろう！～新しい公開講座を考える～」を開催しました。グループワークのなかで、「横のつながり」「ステップアップ」「ボランティア

の活用」など、今後に向けての指針が与えられました。



##### ・ まちなかセミナー

2013年10月12日(土)、北陸地区4国立大学連携のまちなかセミナーを開催しました。富山・石川・福井の各会場に相互に講師を派遣し合う取組みです。2013年度も、各会場でコーディネーターを採用し好評でした。富山会場は「脳・精神の病気ってどんなもの？～どうやって治すの？予防できるの？」と題して福井大・金沢大から講師を迎え、137名の受講者がありました。富山大からも福井・石川各地に講師として本学教員を紹介しました。

## 2. 学外との連携

### ① 平成 25 年度生涯学習推進懇話会

2014 年 2 月 28 日（金）、多岐にわたる本部門の事業の成果や改善すべき点を把握するため、第 2 回生涯学習推進懇話会を開催しました。なお、1999 年度開催の第 1 回大学開放推進懇話会からの通算では 15 回を数えます。

### ② 全国協議会

2013 年 9 月 24 日（火）～ 25 日（水）にかけて、第 35 回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会において、意見交換を行いました。2013 年度の当番大学は鹿児島大学が担当しました。

### ③ 北陸地区大学間連携

2014 年 1 月 30 日（木）に金沢大学サテライトプラザ（於金沢市）において、富山大、金沢大、北陸先端科学技術大学院大、福井大の各大学スタッフによる専門委員会が開催され、2013 年度まちなかセミナーの反省・次年度の企画について意見交換がなされました。

## 3. 広報・出版活動

### ① チラシによる広告

オープン・クラス、サテライト公開講座について、新聞へのチラシの折込みを実施しました。また、富山市、高岡市を中心にした地域で、各種学習施設や公民館等に配布依頼を行いました。

このほか、DM の形でパンフレットを郵送し、また各地でチラシ、ポスターの配布を行いました。その他の事業についても、事前に募集案内

を作成し、県民カレッジや各地の公民館等に配布しました。

### ② 出版物

- ・公開講座、オープン・クラス、サテライト講座チラシ及びポスター
- ・オープン・クラス募集要項
- ・「生涯学習部門年報」第 16 巻

### ③ Web やメールを利用した広報活動

- ・センターニュース「生涯学習の窓」31 号
- ・メールマガジン

メールマガジンは、おおよそ 450 人に対し月 1 回のペースで発信し、71 号を数えました。また、大学開放に関する情報発信として随時 Web サイトを更新するとともに、かねてからの課題であったフェイスブックの開設を行いました。

